

# ソーシャルワーク演習Ⅰ

専門教育科目／4単位／T授業

担当教員 久留須 直也

## ■使用テキスト

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 13 ソーシャルワーク演習[共通科目]』 中央法規出版 2021

## ◆参考テキスト

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[社会専門]』 中央法規出版 2021

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 中央法規出版 2021

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』 中央法規出版 2021

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』 中央法規出版 2021

・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 6 ソーシャルワークの基盤と専門職』 弘文堂 2021

・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 7 ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）』 弘文堂 2021

・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 8 ソーシャルワークの理論と方法』 弘文堂 2021

・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 9 ソーシャルワークの理論と方法（専門）』 弘文堂 2021

・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 20 ソーシャルワーク演習』 弘文堂 2021

・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 21 ソーシャルワーク演習（専門）』 弘文堂 2021

・白澤政和・福山和女・石川久展（編）『社会福祉士 相談援助演習（第2版）』 中央法規出版 2015

## 講義概要・一般目標

ソーシャルワーク演習では、ソーシャルワーク機能の実践能力を有する社会福祉士を養成するため、講義で学習した知識や技術を統合し、具体的な事例を用いて実践的に、基礎的なソーシャルワーク機能を習得します。

また、社会福祉の相談援助に必要なコミュニケーション技術を習得することを目的とし、その技術に必要な自己・他者理解、受容・傾聴・共感・支持などの言語・非言語のコミュニケーション、面接技術、アセスメント・プランニング・評価方法など、社会福祉相談援助の技術を習得します。さらに、社会福祉の様々な対象へのソーシャルワーク実践として、ロールプレイ、事例検討等を通して展開していきます。

スクーリングにおいては、より実践に近い授業展開を実施します。

## 到達目標

- 1) ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。
- 2) ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
- 3) ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。
- 4) ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。

## 評価方法

科目単位認定試験（レポート）により評価する。

# 学習指導

## 第1章 ソーシャルワーク演習の意義と目的

本章では、ソーシャルワーク演習の意義と目的について学ぶ。はじめに、ソーシャルワーク演習とは何かを理解するため、ソーシャルワーカーの業務と役割について、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義およびソーシャルワーク専門職のグローバル定義の日本における展開等を踏まえて理解する。また、コルブ(Kolb,D.A.)の経験学習モデルに基づく能動的な学びのサイクルからソーシャルワーク演習の目的を理解し、加えて、そのねらいと意義を整理する。次に、ソーシャルワーク演習を通して学ぶことについて、アメリカのソーシャルワーク教育認定機関に記されているコンピテンシーを学ぶ。

## 第2章 人と環境の交互作用

本章では、ソーシャルワークの基盤にある、人と環境の交互作用に焦点を当てる視点を取り上げる。第1節では、クライアントの理解や支援にあたって、ソーシャルワークが人と環境の交互作用に焦点を当てていくことを学んでいく。また、第2節では、他者であるクライアントを理解するにあたって、ソーシャルワーカーは、自身をクライアントの環境の一部と位置づけ、自身をも分析の対象とし、自己理解を図っていくことを学んでいく。これらを通して、実践家やソーシャルワークを学び始めた者が、自身の活動を適切な方向に導く基礎となる考え方や態度を身につけていく。

## 第3章 ソーシャルワークの対象、機能と役割

本章では、はじめにソーシャルワークの対象について、ミクロ・メゾ・マクロレベルを一体的に捉えるワークに取り組む。ミクロ・メゾ・マクロレベルの状態や出来事が交互作用によって起きており、切り離すことができないことを理解する。次に、ソーシャルワークの価値基準および倫理、理念について、個人的な価値観と専門職としての価値観の関係やソーシャルワーカーの倫理、倫理的ジレンマ、そして、ソーシャルワークの理念、原理・原則について、ワークおよび事例を通して学ぶ。最後に、ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割について、その機能をソーシャルワークの目標から捉え、事例を通して学び、役割も理解する。

## 第4章 コミュニケーション技術と面接技術

ソーシャルワークは、クライアントとソーシャルワーカーとの相互作用の過程で実践されるものであり、コミュニケーションはソーシャルワーカーが専門職としてクライアントと援助関係を築き、かかわる際に重要な技術となる。多様なクライアントの状況や特徴に合わせた適切なコミュニケーションがクライアントとの信頼関係の形成に影響を与えることを理解する。そして、面接は、クライアントとソーシャルワーカーのコミュニケーションが展開される場であり、当事者自身によって問題が語られるという点において特別重要な意味をもつことを学ぶ。ソーシャルワーカーは、面接を通じてクライアントとの相互交流を深めることができるため、具体的なクライアントと場面を想定し、実際に活用するイメージをもつことができるようになることを目指す。

## 第5章 ソーシャルワークの展開過程と関連技法

ソーシャルワークは、専門職としての価値観を基盤として、知識および技術をクライアントの状況やニーズに合わせ、創造的に組み合わせて展開することが求められる。ソーシャルワークの基本的なプロセスは、エンゲージメント(インテーク)、アセスメント、プランニング、支援の実施とモニタリング、支援の終結と結果評価、アフターケアという構成要素から概念化されている。ソーシャルワークは、クライアントのウェルビーイングの実現や問題の解決に向けて展開されるため、各要素が独立して機能しているのではなく、そのプロセスは本質的に円環的になっていることを学ぶ。

## 第6章 ソーシャルワークの実習後の演習

本章では、ソーシャルワーク実習後の演習について、はじめに事例検討及び事例研究を活用した演習の方法をそれぞれの違いを理解する。事例検討について、実施するための例と進め方のステップとともに、効果的に進めるための質問する際のルールを学ぶ。また、事例研究は事例に基づき理解する。次に、スーパービジョンについては、実習後にスーパービジョンを活用して学びを深めるために理解しておくべき知識として、事例の展開を通じてパラレルプロセス、スーパービジョンのプロセスと機能を学ぶ。